

(2)

(平成 30・2・20)

第70期集合修習B班カリキュラムの概要

司法研修所

は し が き

平成28年度（第70期）司法修習生のうち、B班（実務修習地が東京、立川、横浜、さいたま、千葉、大阪、京都、神戸、奈良、大津、和歌山以外である者）を対象とする集合修習のカリキュラムは、12クラス編成で平成29年10月3日に開始され、同年11月15日に終了した。

第70期B班の集合修習のカリキュラムの概要は、この資料及び別添「平成28年度（第70期）司法修習生B班集合修習日程予定表」のとおりである。

集合修習のカリキュラム策定に当たっては、法科大学院において修得した学識及び実務の基礎的素養等並びに実務修習の成果を踏まえて「幅広い法曹の活動に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的かつ汎用的な技法と思考方法」（司法修習生指導要綱（甲）第1章第1）を修得させる観点から、実務修習を補完し、司法修習生全員に、実務の標準的な知識、技法の教育を受ける機会を与えるとともに、体系的に汎用性のある実務知識や技法を修得させることを旨としている（要綱（甲）第3章第1）。

このような趣旨を踏まえ、第70期B班においても、修習記録を用いて司法修習生に文書を起案させ、討論、講評を行うことを指導の中心としつつ（同第4の1），従来の司法修習で要求していたような法律書面の全体を形式面も含めて起案させることにはこだわらず、より実質的に、書面の内容の根底をなす思考過程を明らかにさせることを重視する方法で出題がされているほか、ロールプレイングも含めた民事・刑事の様々な講義、演習、問題研究や法曹倫理、国際人権等に関する演習、講演なども実施された。

司法修習生指導担当者各位におかれでは、本資料を今後の実務修習における指導の参考としていただきたい。

第1 民事関係科目

I 民事裁判

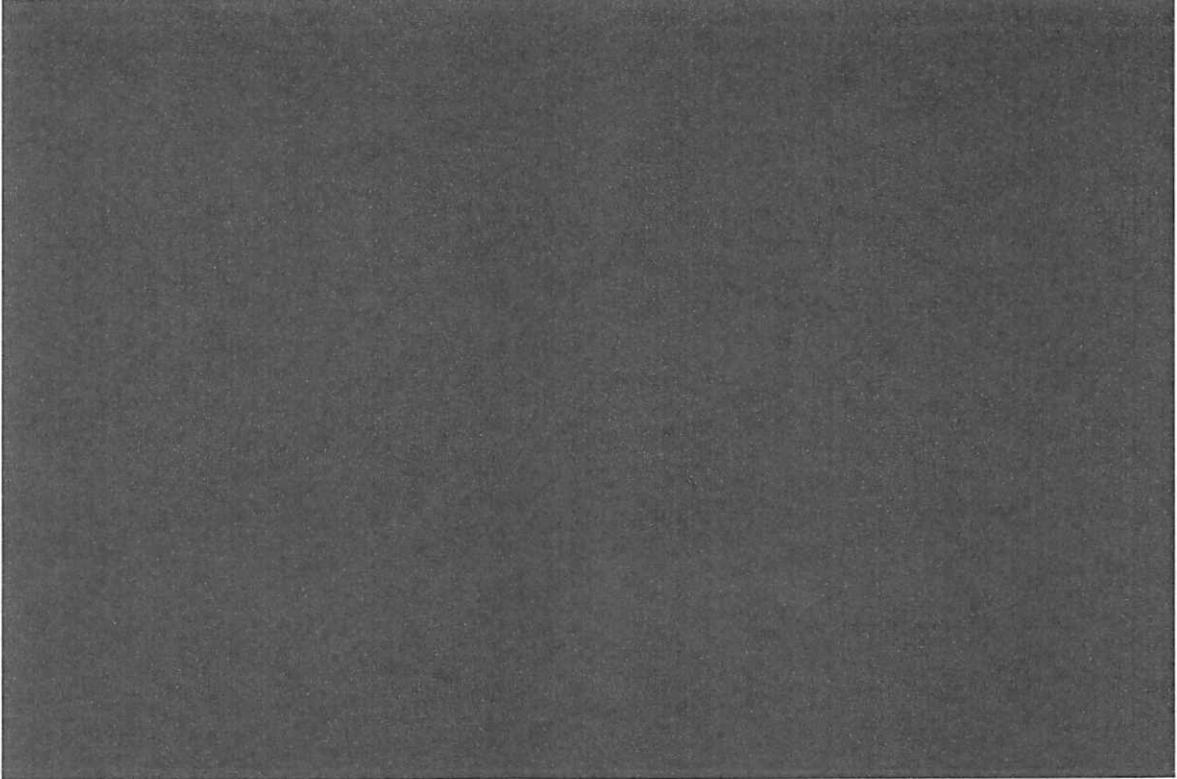
1 講義

集合修習の冒頭に、集合修習に向けてのガイダンスをし、集合修習における民事裁判科目及び民事共通科目の修習内容を説明してその意義を理解させ、今後の学修方法に関する指導を行うことで集合修習への動機付けを行った。



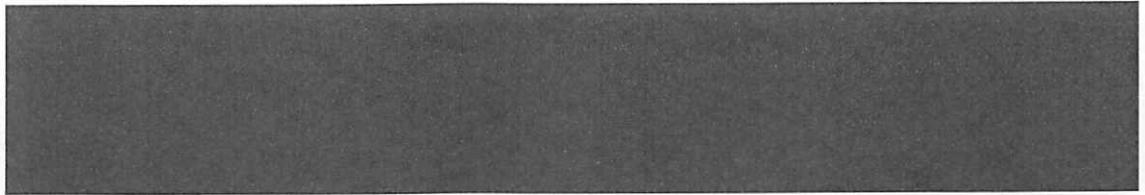
2 起案

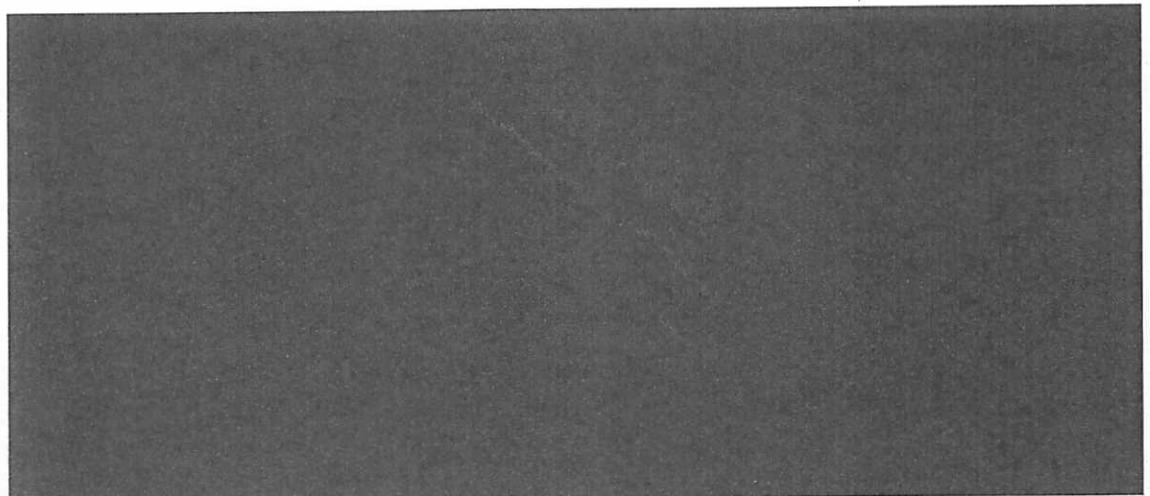
(1) 総説



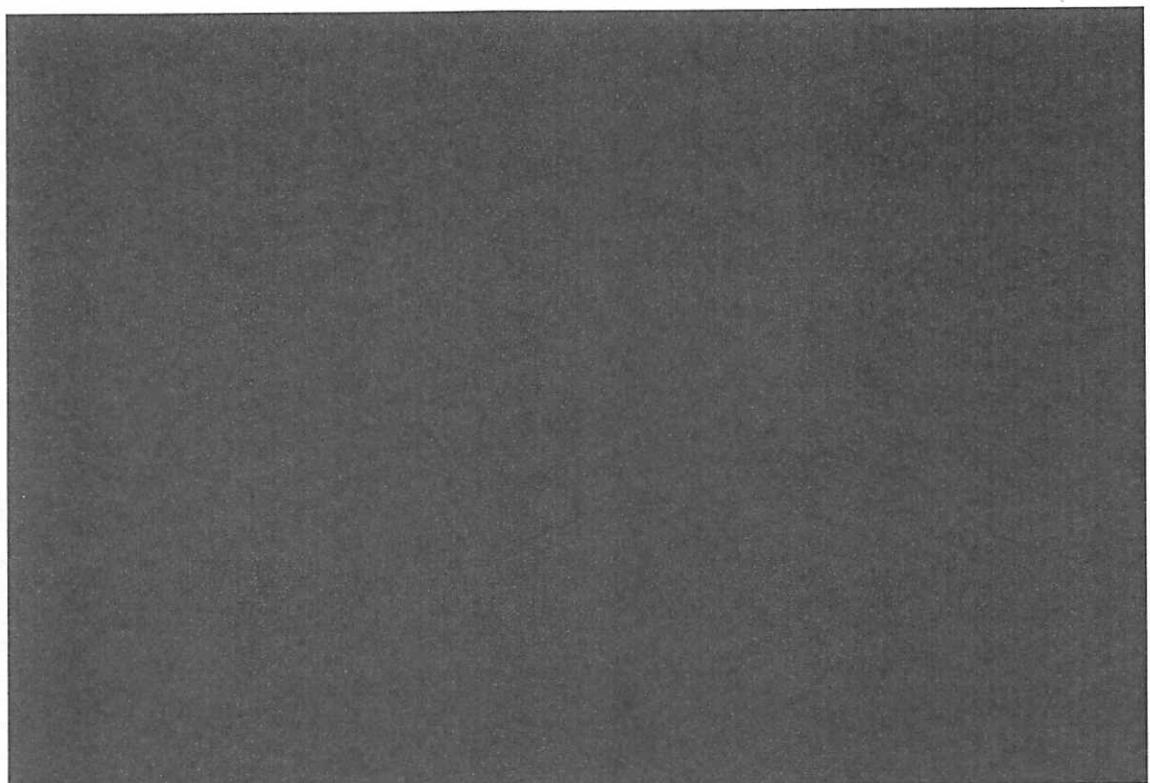
(2) 起案 1

ア 事案の概要



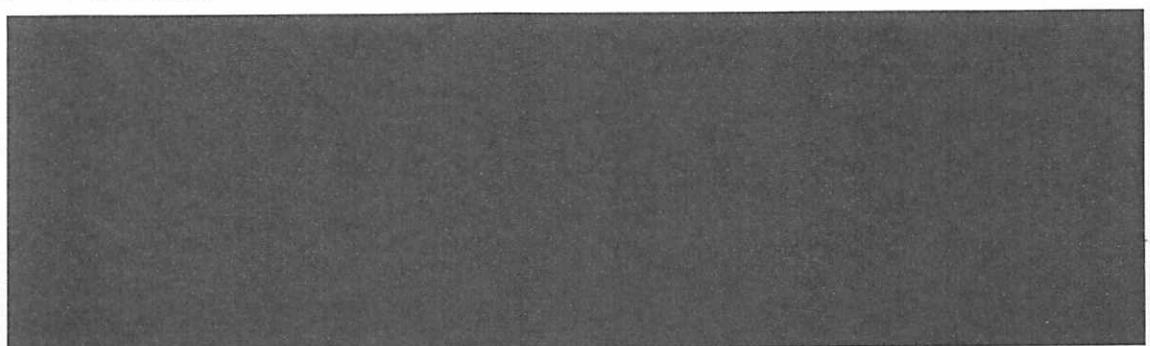


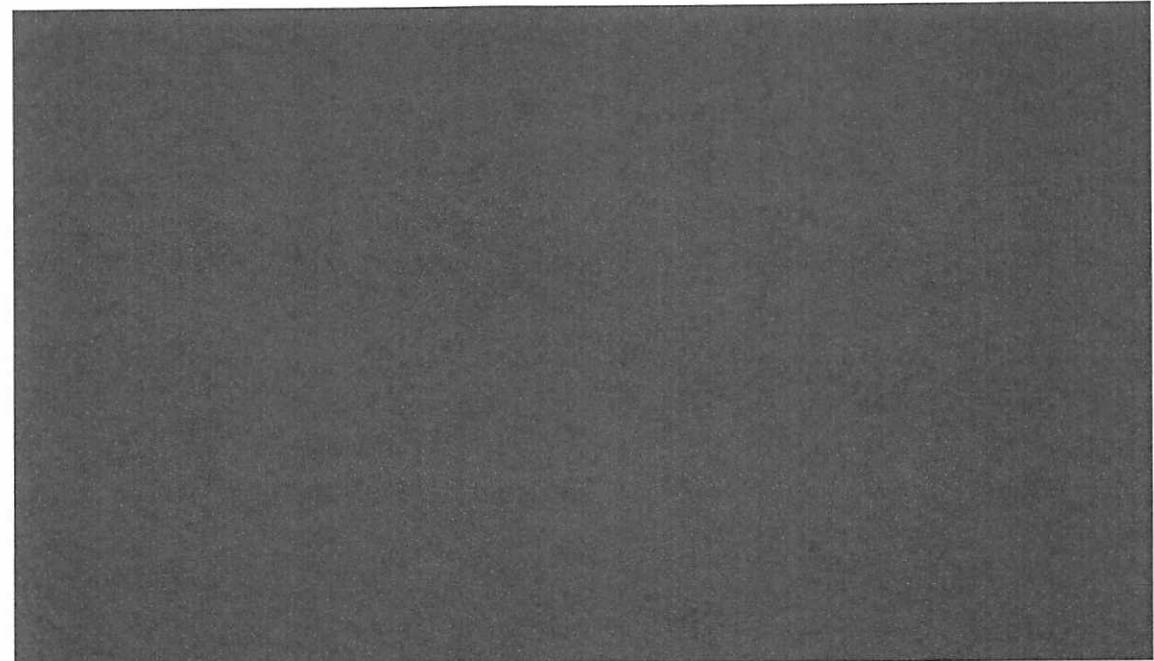
イ 起案事項等



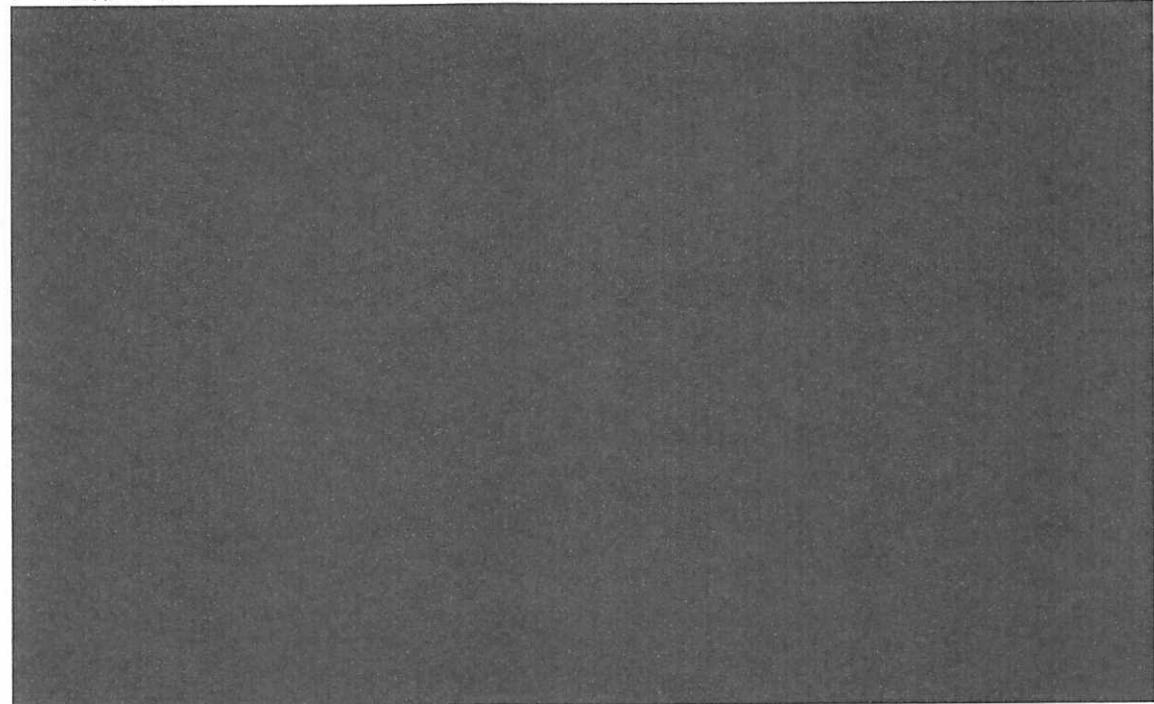
(3) 起案 2

ア 事案の概要



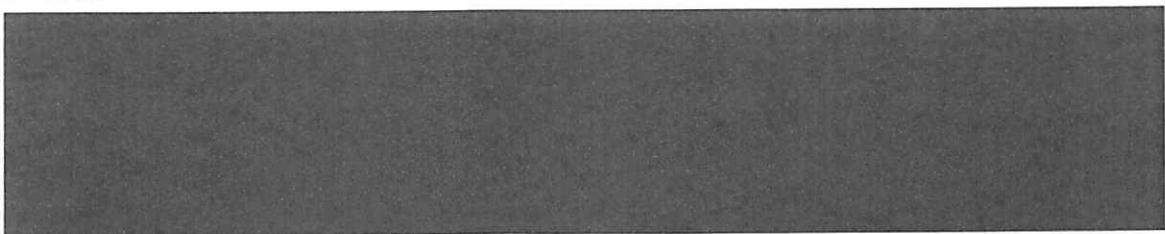


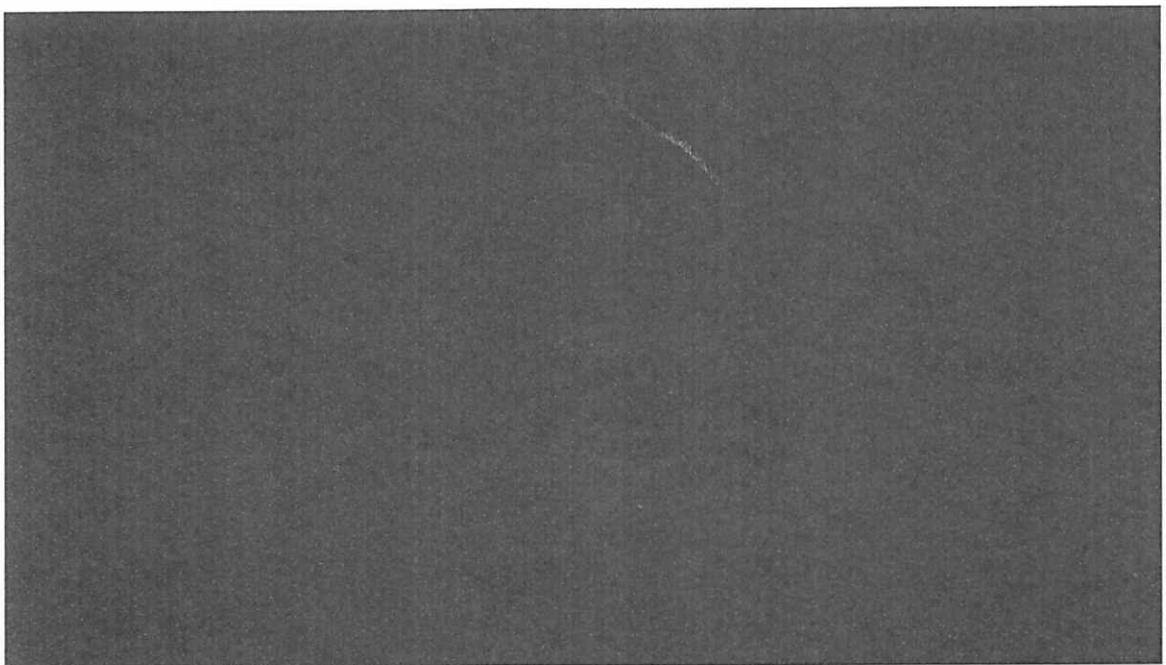
イ 起案事項等



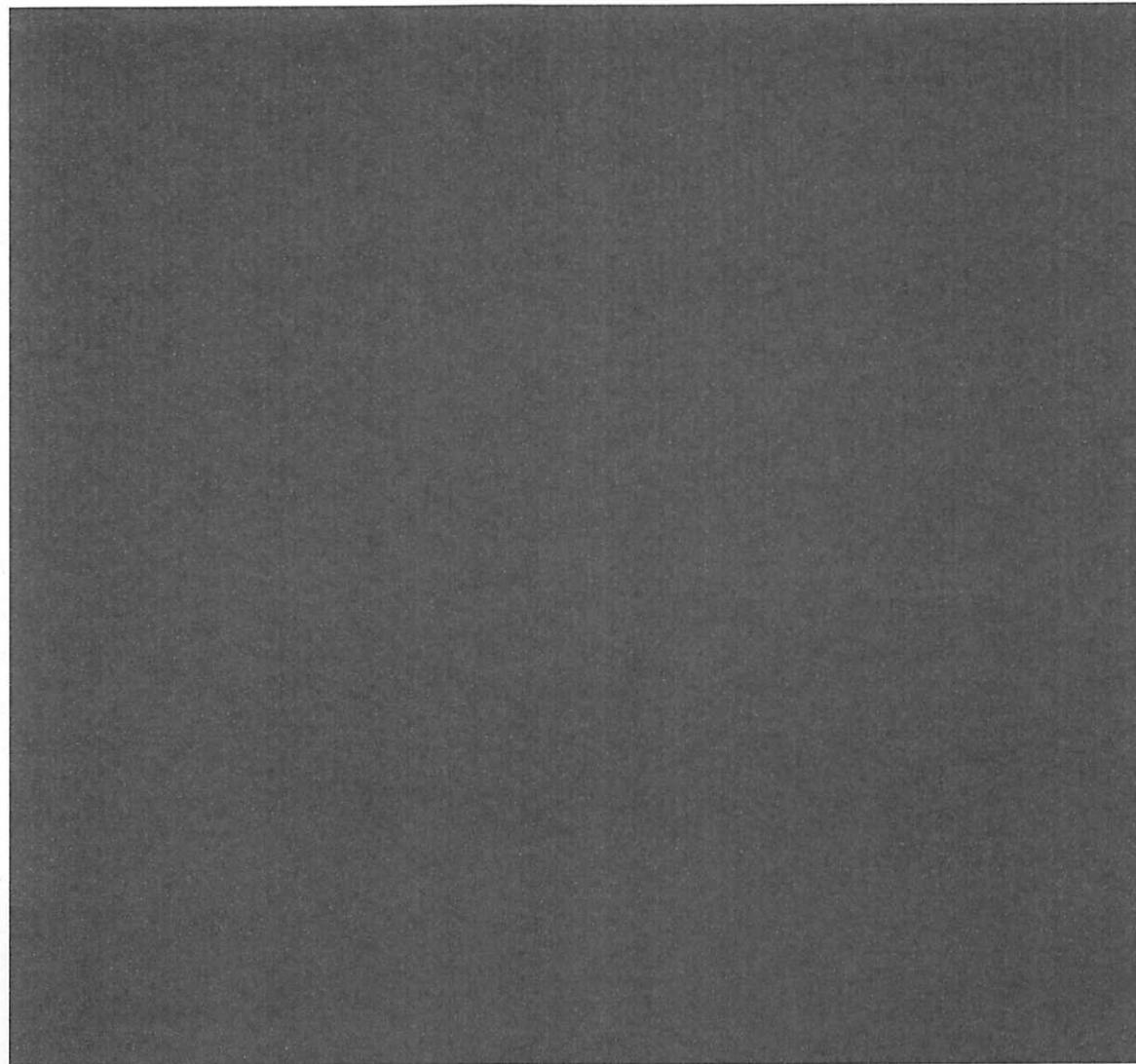
3 演習（争点整理）

(1) 総説

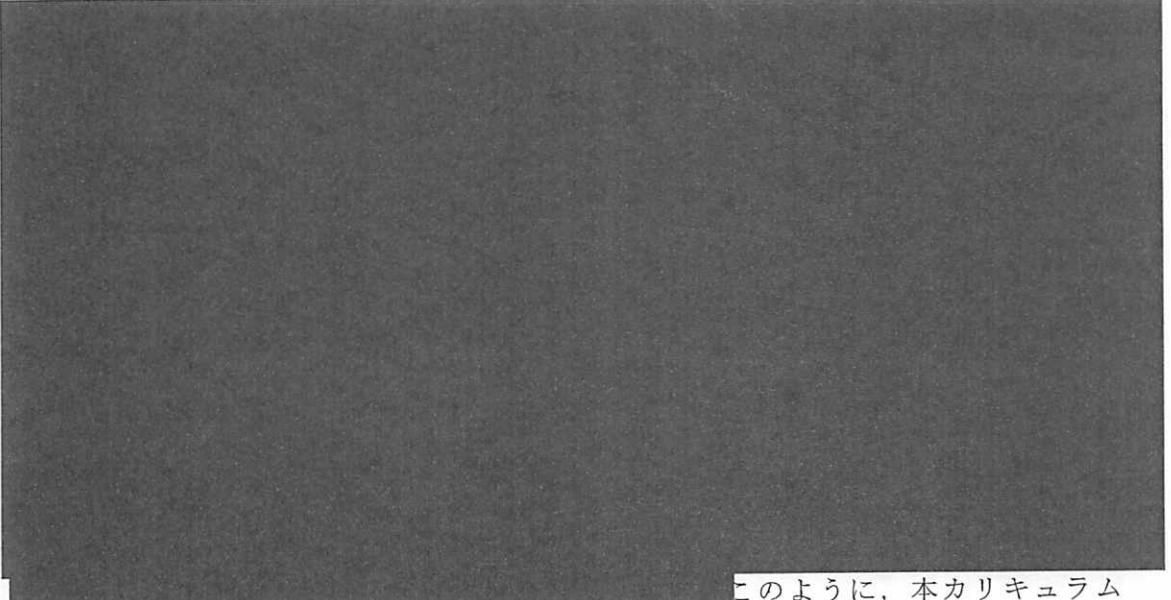




(2) 事案の概要



(3) 演習内容等



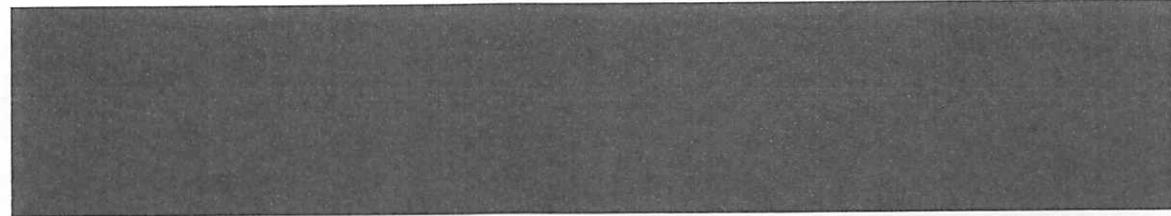
このように、本カリキュラム

は、実務家としての基礎的かつ実践的な思考力、状況に応じた紛争解決能力のかん養を目的とするものであり、法曹としての実際の活動との架橋を意識したものである。

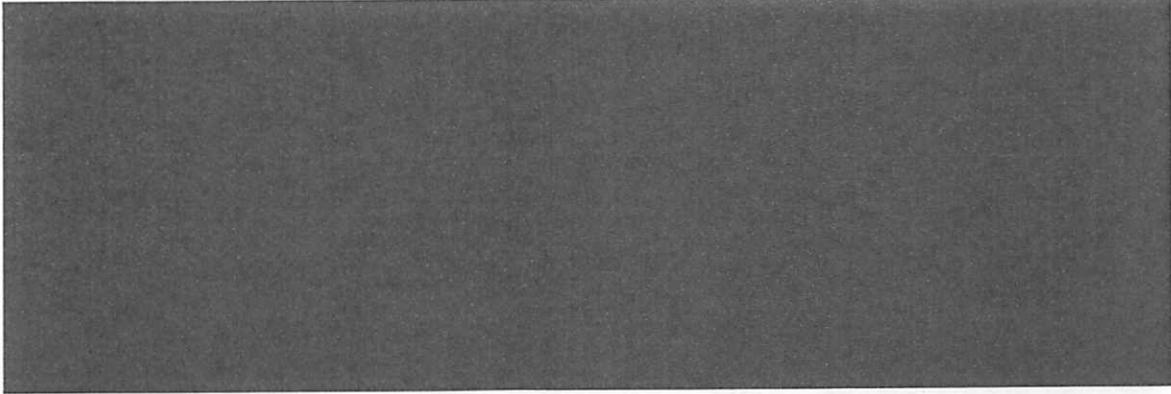
II 民事弁護

1 問題研究 1, 2

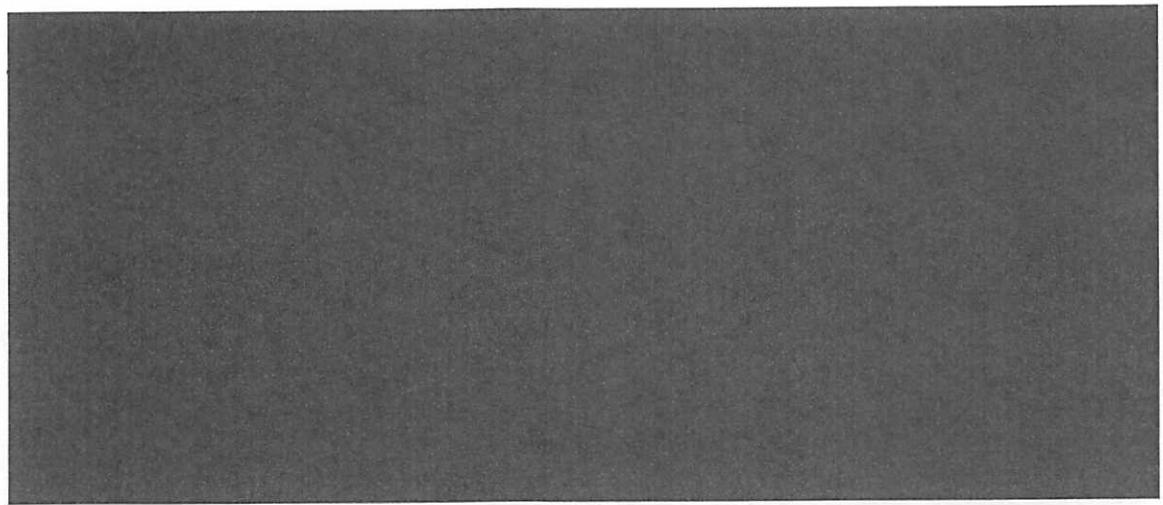
(1) 実施内容



(2) 事案の概要



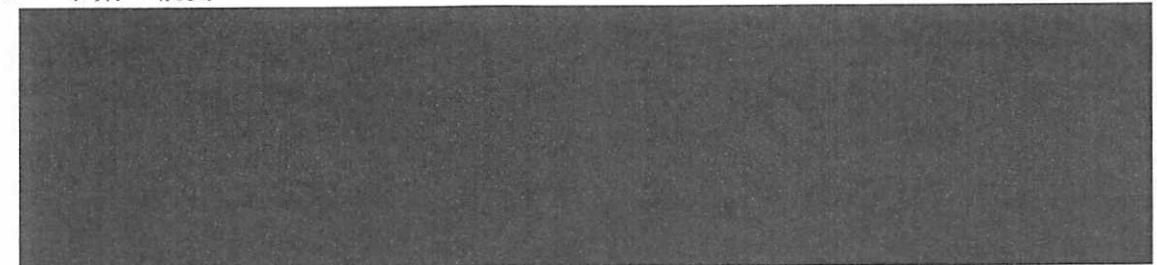
(3) 研究事項等



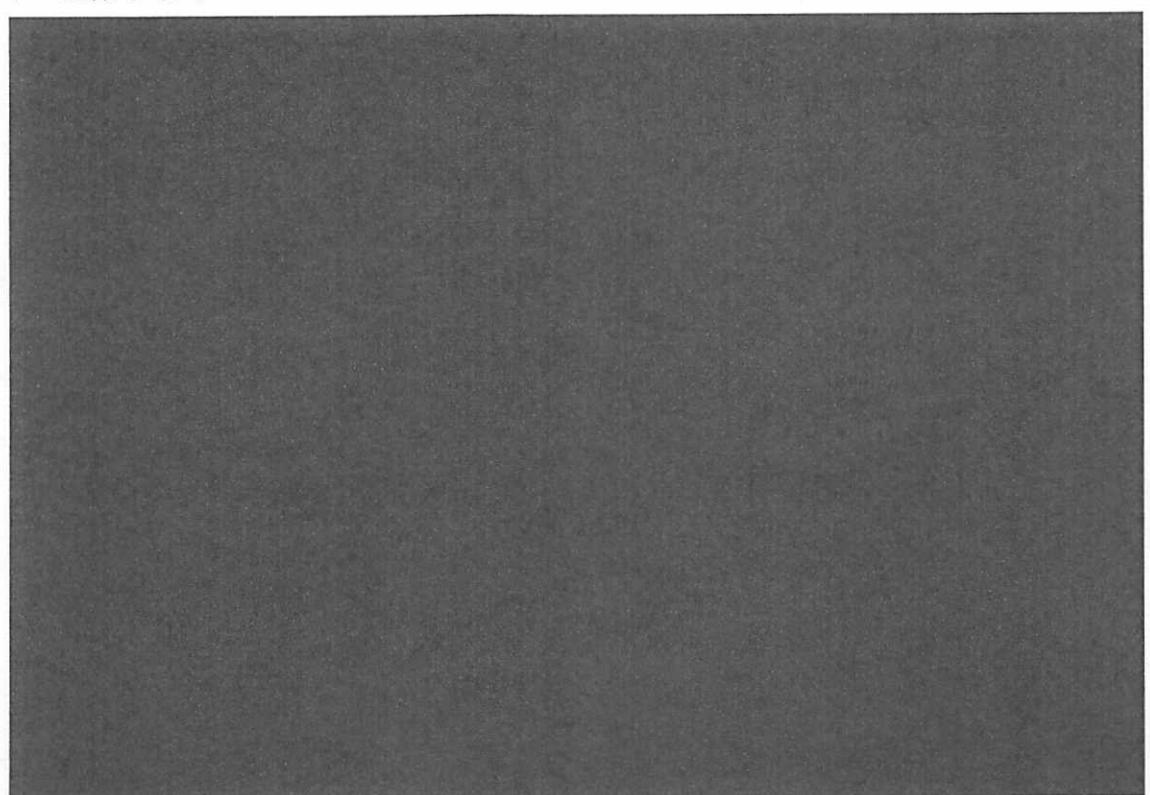
2 起案

(1) 起案 1

ア 事案の概要



イ 起案事項等



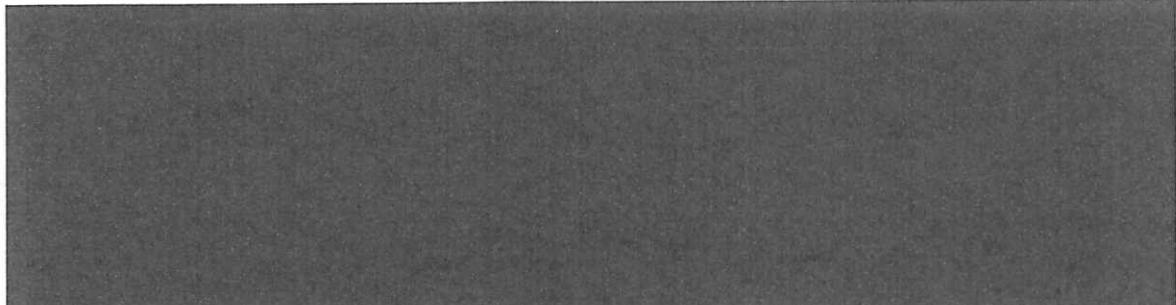
(2) 起案 2

ア 事案の概要

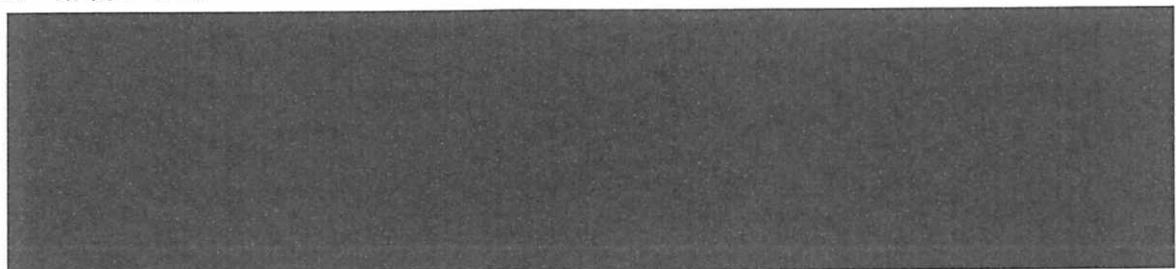
イ 起案事項等

3 講義（和解条項）

(1) 実施の概要



(2) 講義の目的



4 演習（法律相談）

(1) 実施の概要



(2) 演習の目的

法律相談は、受任に先立つ行為として、受任の可否、事案解決の見込み、処理方針などを判断し、かつ、依頼者に対して、事案処理方針の説明、報酬等の説明をした上で、弁護士委任契約の締結などを行う重要なステージである。また、依頼者から適切に事案の本質を聞き出し、かつ、依頼者との信頼関係を醸成する重要な場でもある。

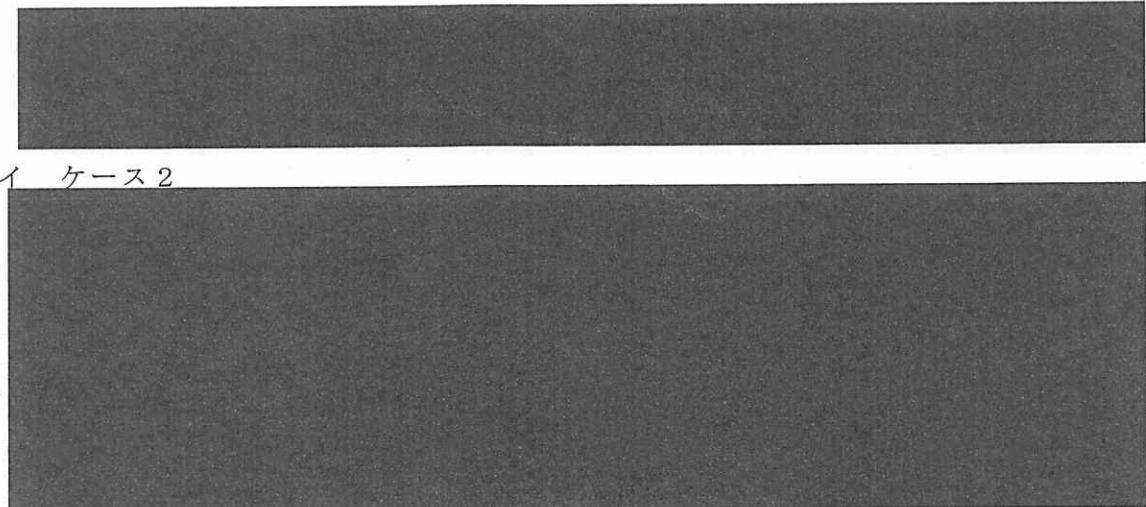


(3) 事案の概要

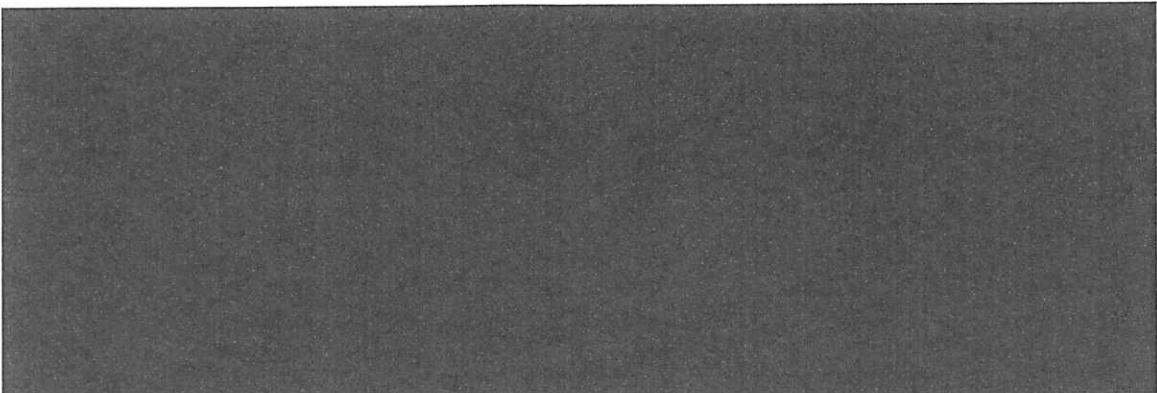
ア ケース 1



イ ケース 2



(4) 実施内容

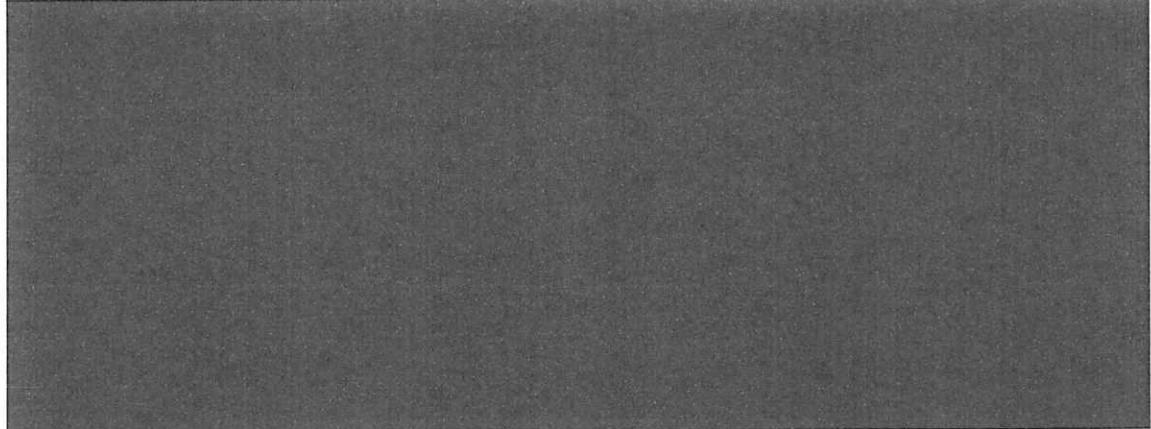


III 民事共通

1 民事共通演習 1 から 4 まで

(1) 総説

ア 趣旨



イ 事案の概要



(2) 民事共通演習 1 (口頭弁論)

ア 課題及び実演等

イ 講評

(3) 民事共通演習 2 (弁論準備手続期日)

ア 課題及び実演等

イ 講評等

(4) 民事共通演習 3 (交互尋問)

ア 趣旨

イ 事前準備等



ウ 交互尋問等



エ 講評等



(ア) 外部講師（裁判所職員総合研修所教官）による講評



(イ) 教官による講評



(ウ) 事実認定討論



(5) 民事共通演習 4（判決）

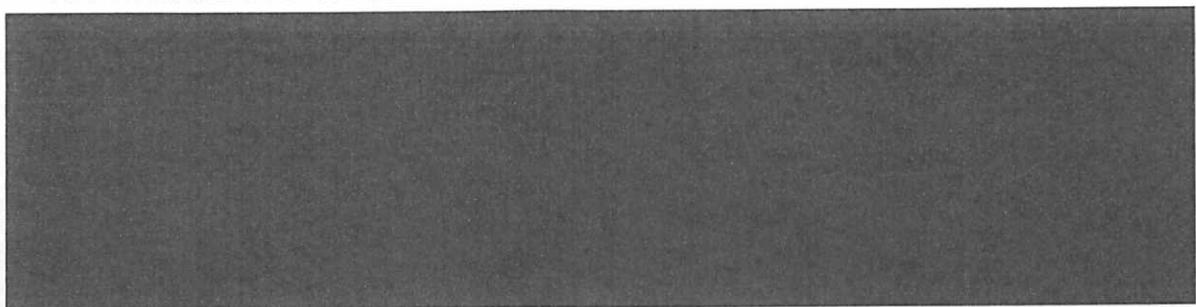
ア 判決



イ 講評



2 民事共通問題研究（和解）

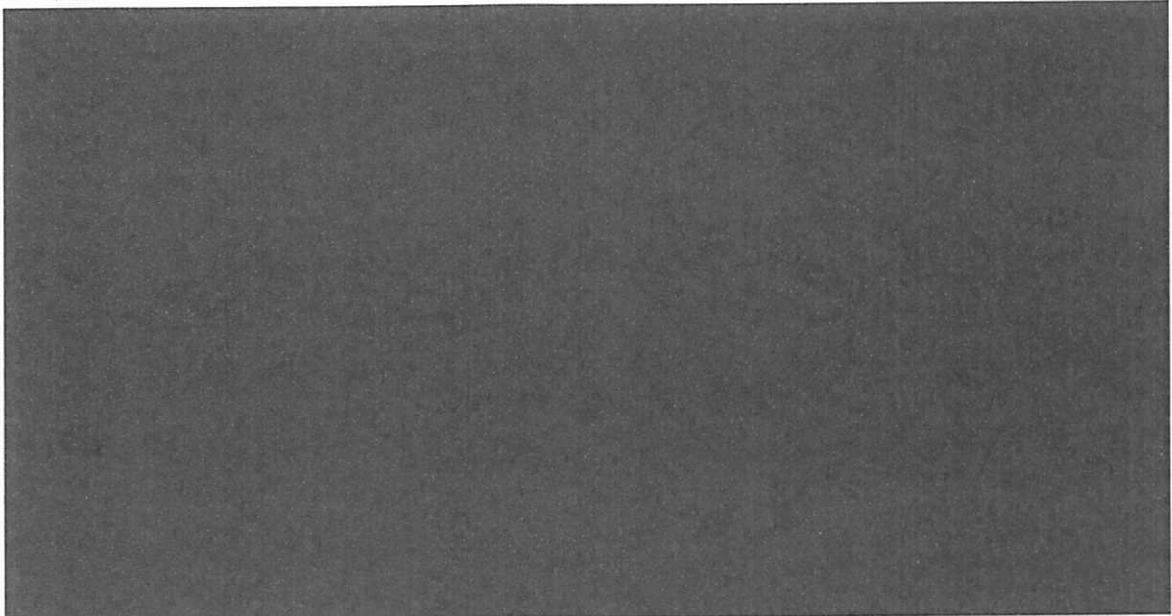


第2 刑事関係科目

I 刑事裁判

1 起案

(1) 総説



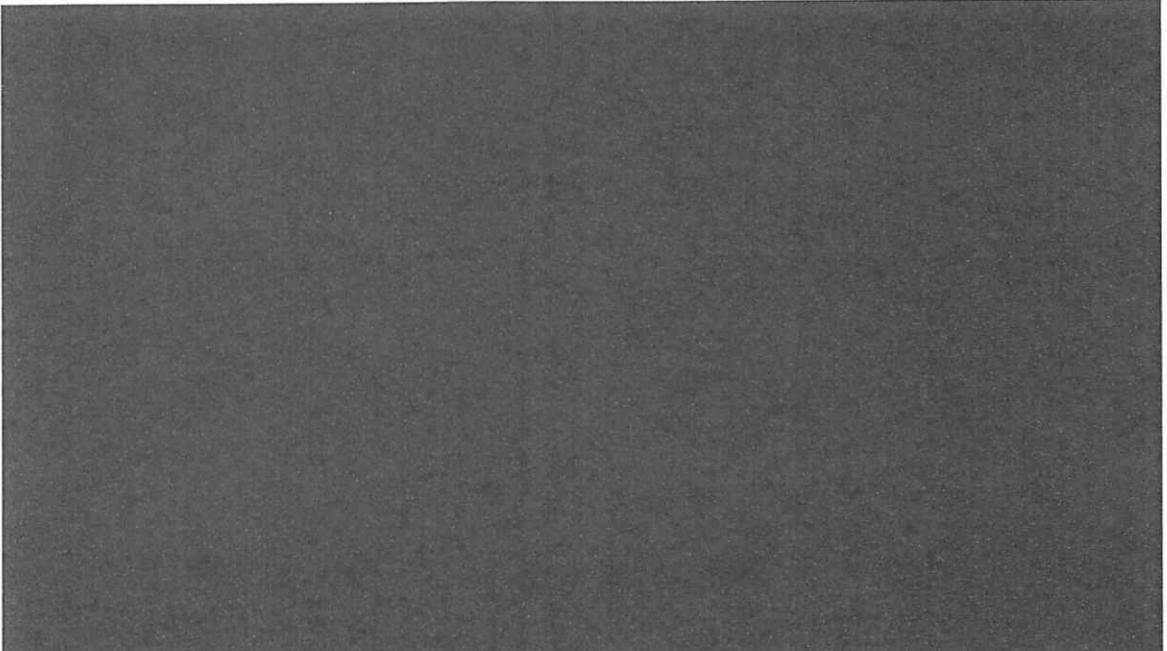
なお、いずれの設問についても、書式、形式等を要求するものではないし、単なる知識を問うものでもなく、新司法修習における指導理念に対応した、法曹としての活動に共通して必要となる汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いて出題している。

(2) 起案 1

ア 事案の概要

イ 起案事項

ウ 講評

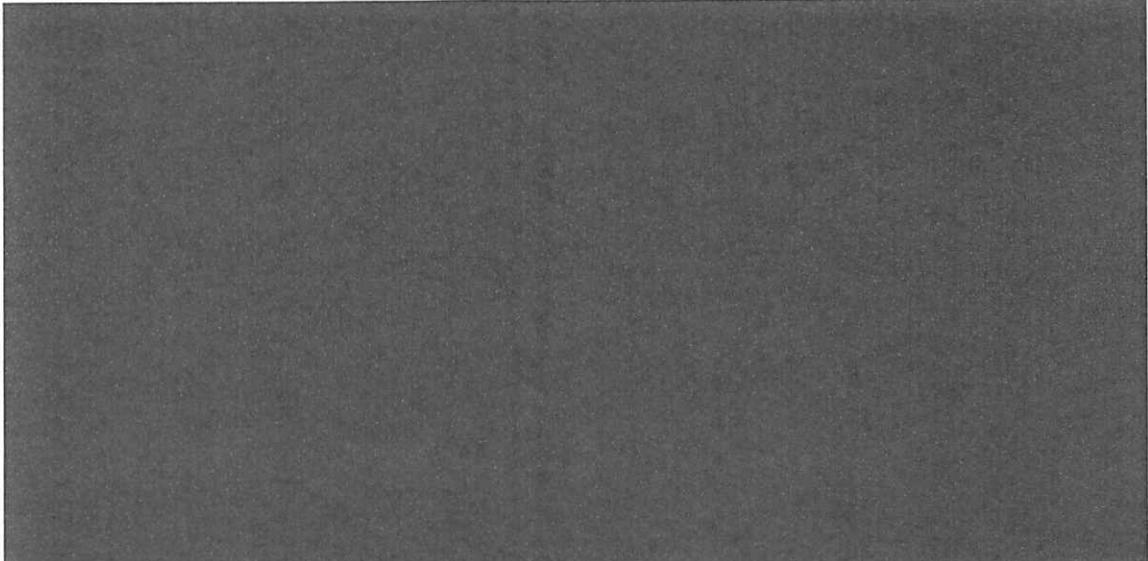


(3) 起案 2

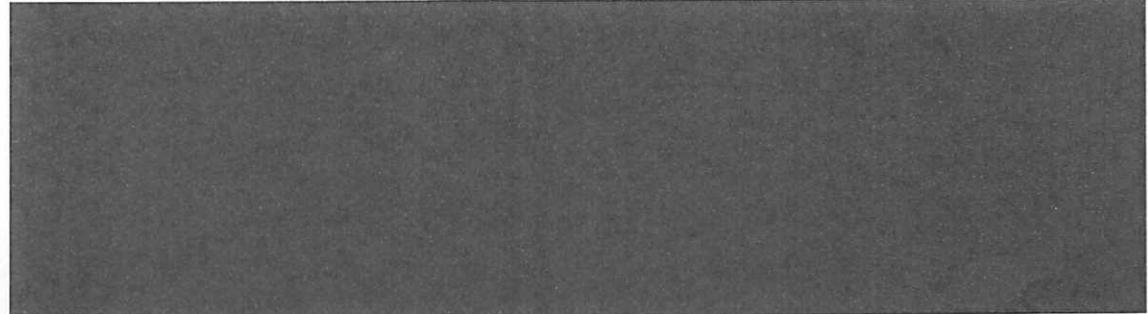
ア 事案の概要



イ 起案事項



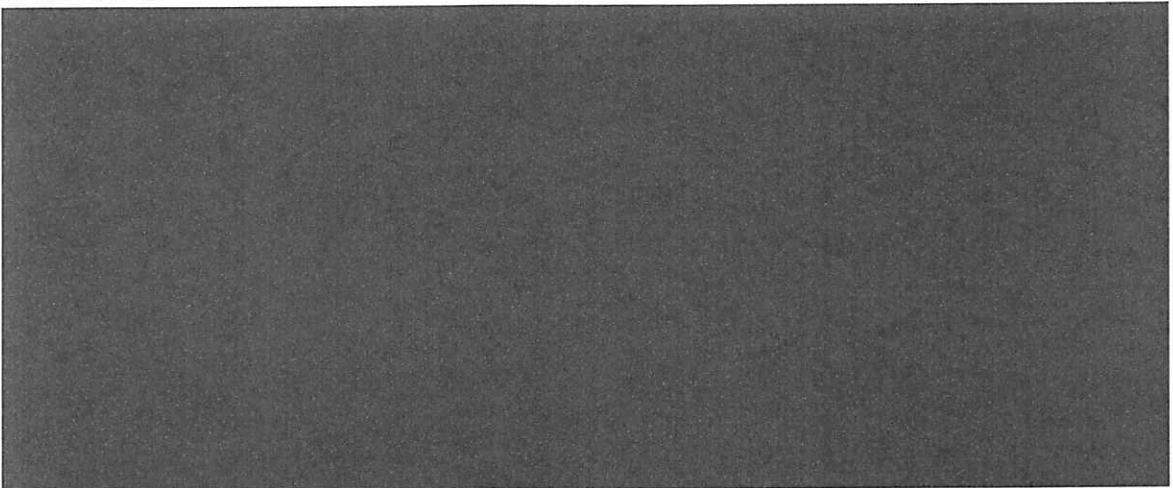
ウ 講評



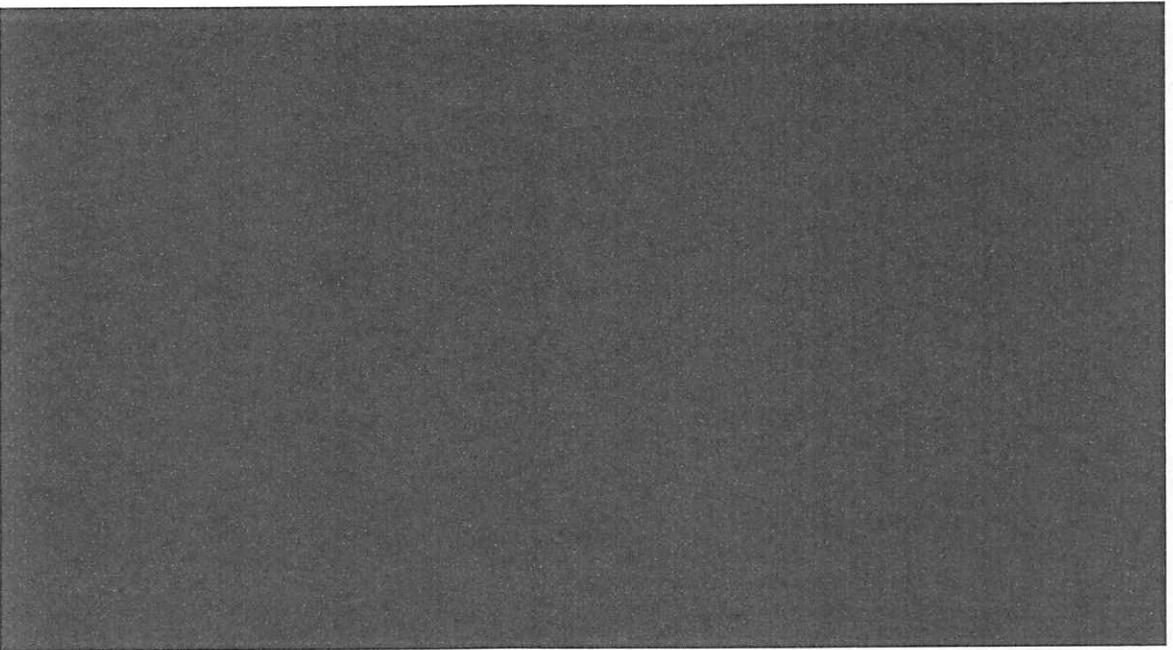


2 問題研究

(1) 指導目標



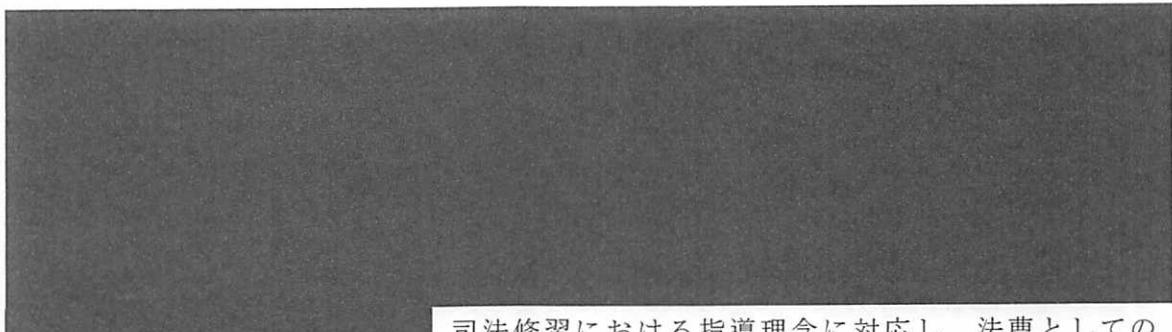
(2) 實施內容



II 檢 察

1 起案

(1) 檢察起案の概要



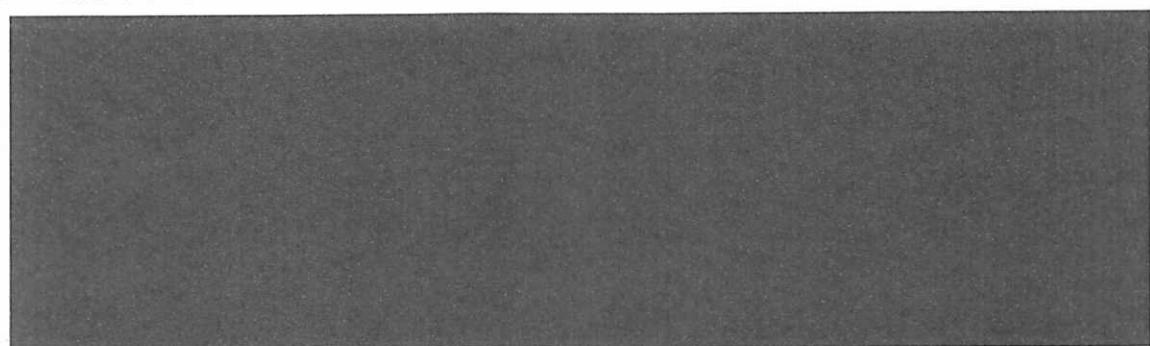
司法修習における指導理念に対応し、法曹としての汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いた出題であり、刑事手続に関する問題についても、単に法的知識を問うだけではなく、修習記録中に現れた具体的な事実関係を正確に把握しなければ正解に達し得ない問題を出題するように配慮した。

(2) 起案 1

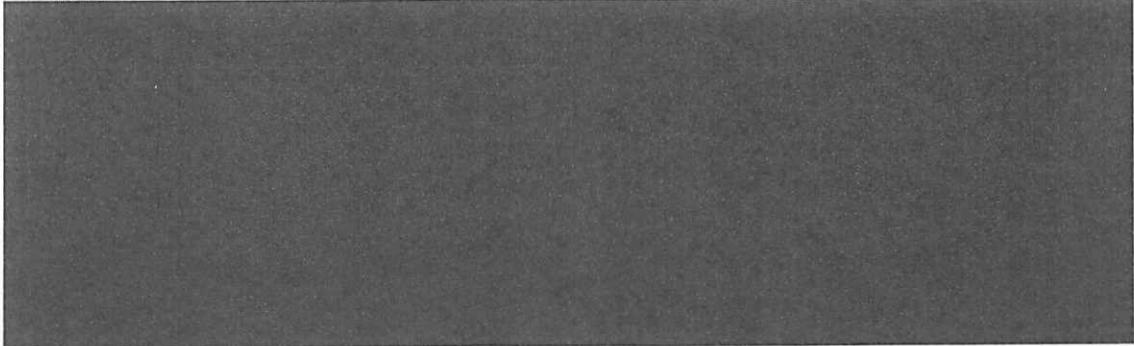
ア 事案の概要



イ 起案事項等

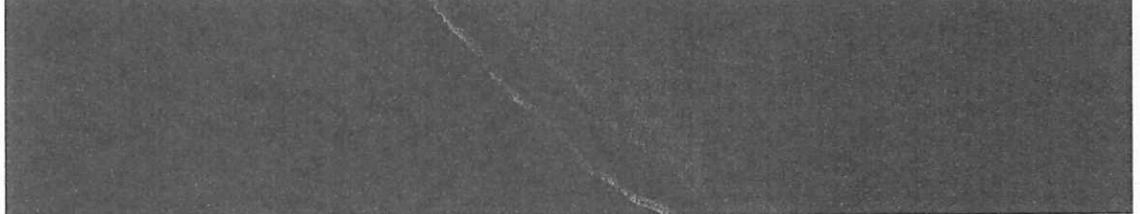


ウ 講評

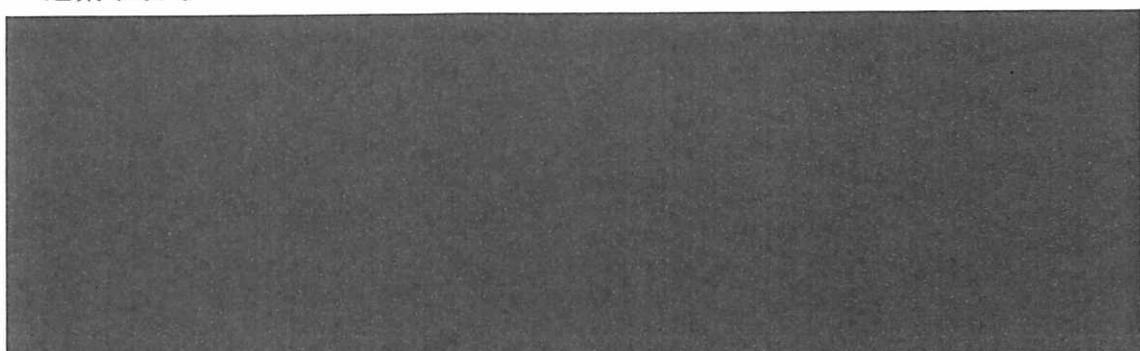


(3) 起案 2

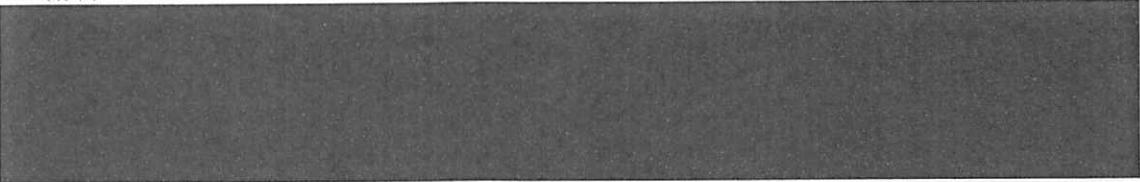
ア 事案の概要



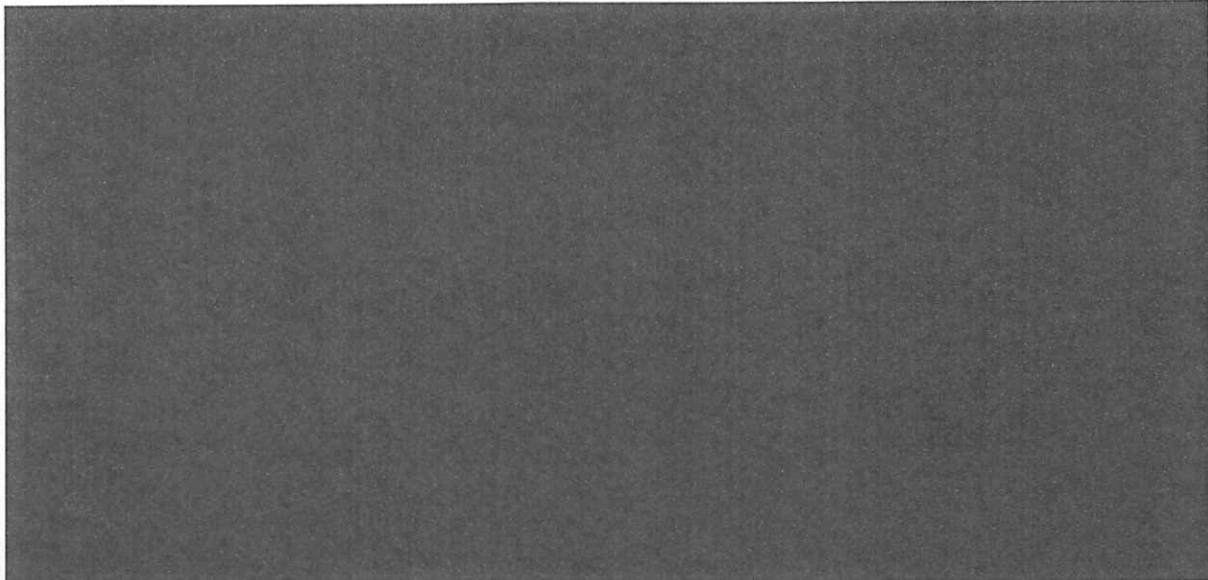
イ 起案事項等



ウ 講評



2 問題研究（被害者保護）
指導目標及び実施内容等

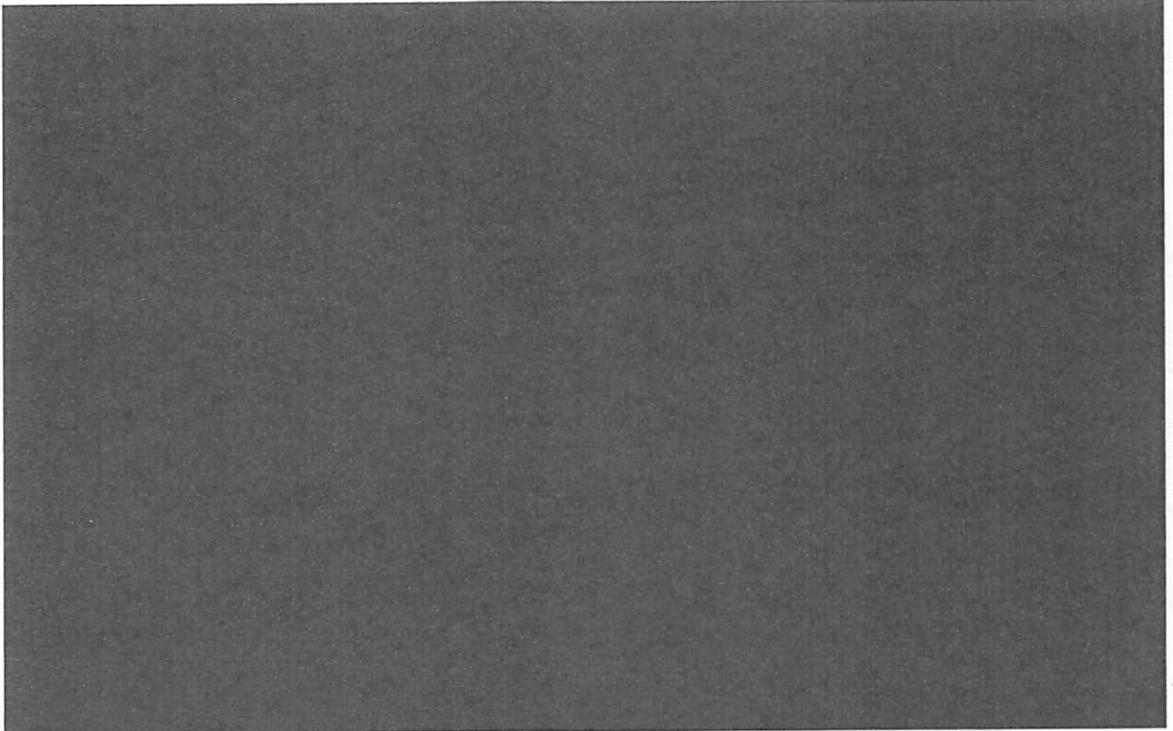


III 刑事弁護

1 起案

(1) 総説

刑事弁護教官室は、修習生に対して、具体的な刑事事件に基づきケース・セオリー（弁護人の求める結論が正しいことを導く論拠）を確立する弁護活動の基本を指導し、弁護人が行うべき最善の努力を尽くした活動とは何かを考えさせることにより、弁護人としての基本的な能力・技術、さらには、法曹の活動に共通して必要とされる基本的かつ汎用的な能力を修得させるとともに、法曹資格取得後の自己研鑽への意識付けをさせることを指導方針としている。

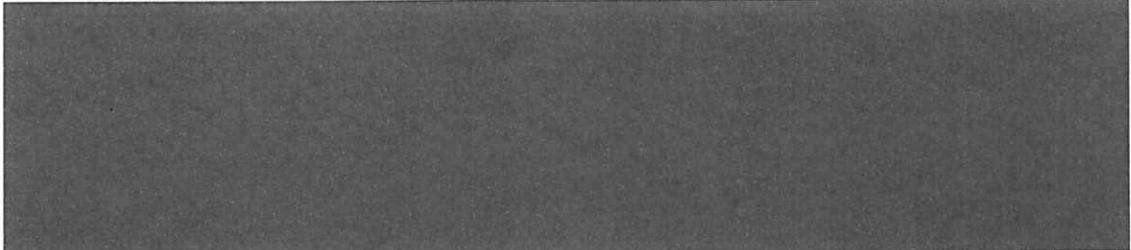


(2) 起案 1

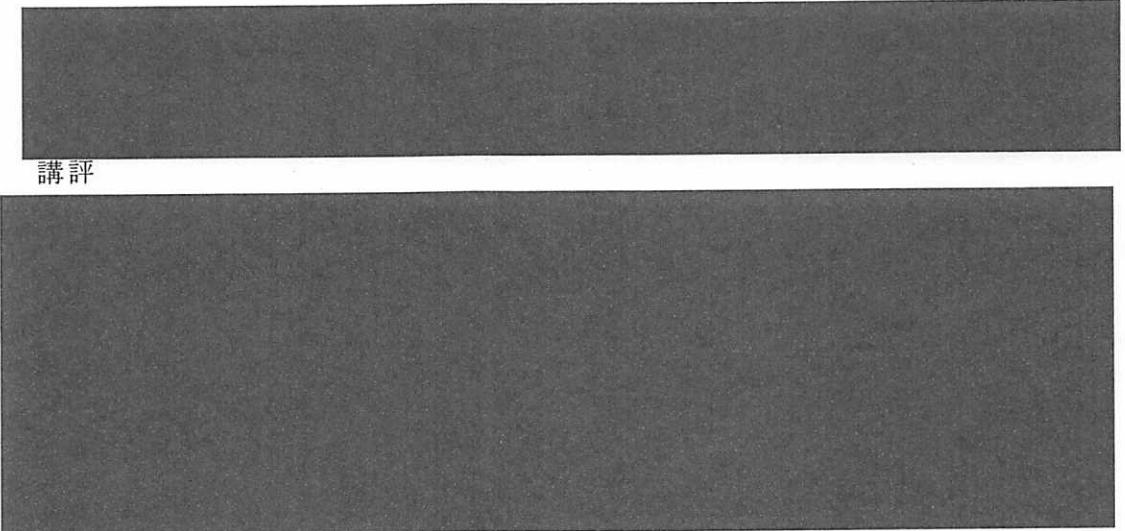
ア 事案の概要



イ 起案事項

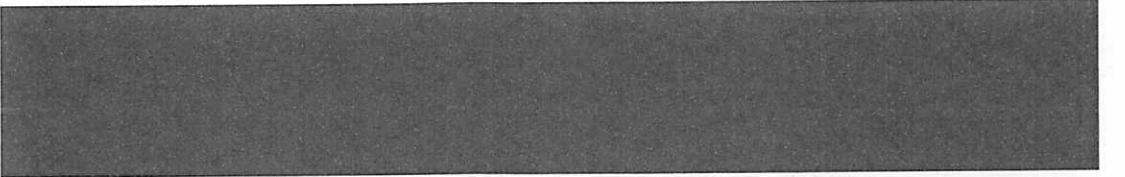


ウ 講評

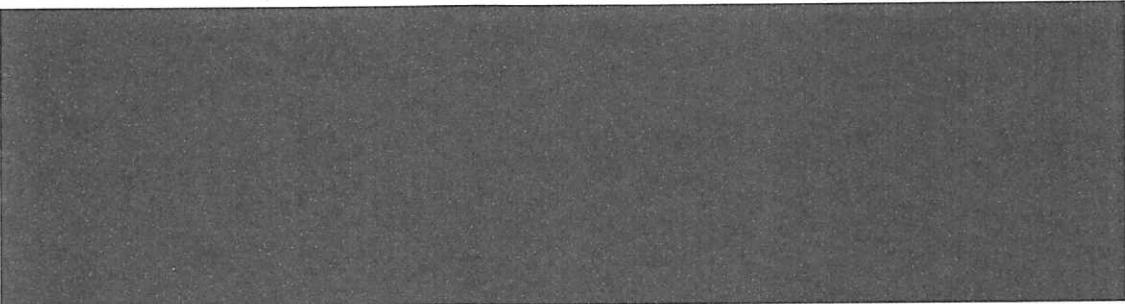


(3) 起案 2

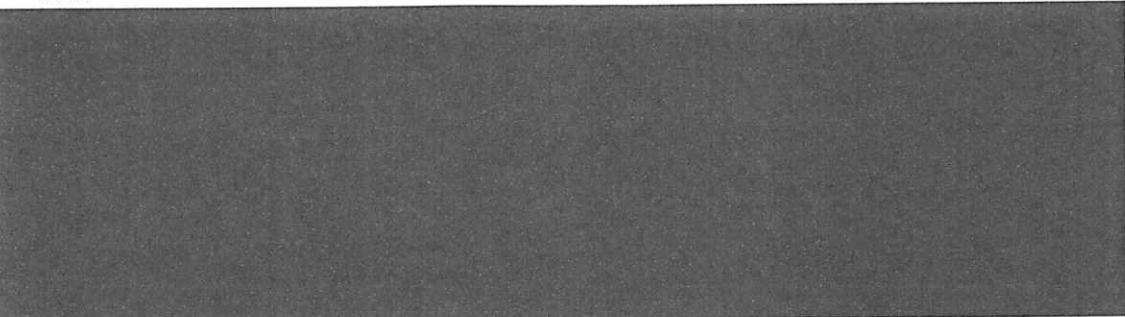
ア 事案の概要



イ 起案事項



ウ 講評

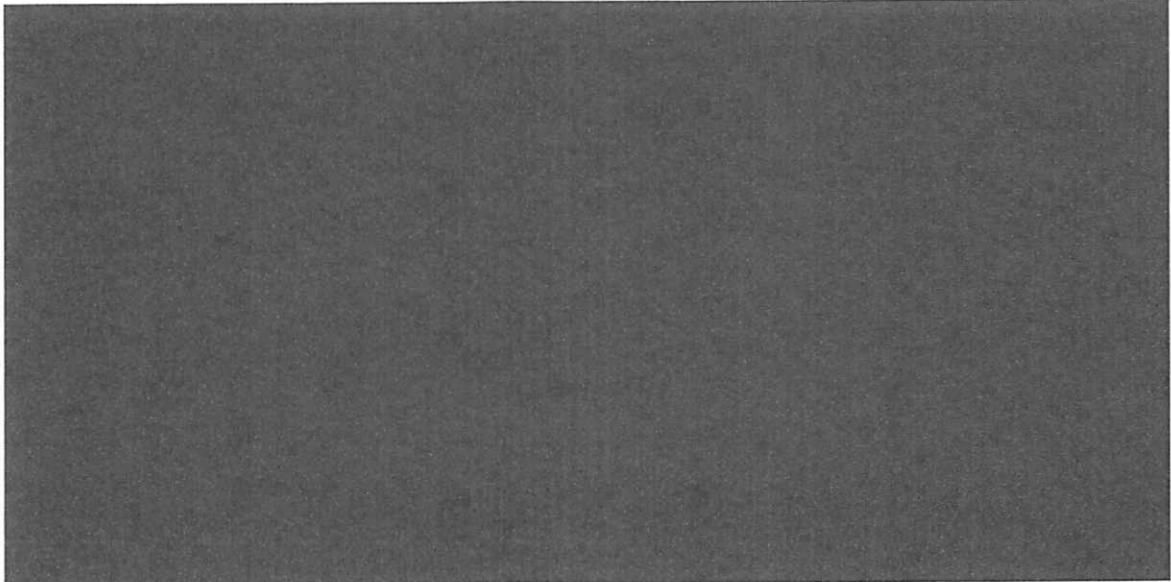


2 問題研究（取調べ対応，示談交渉）

(1) 指導目標



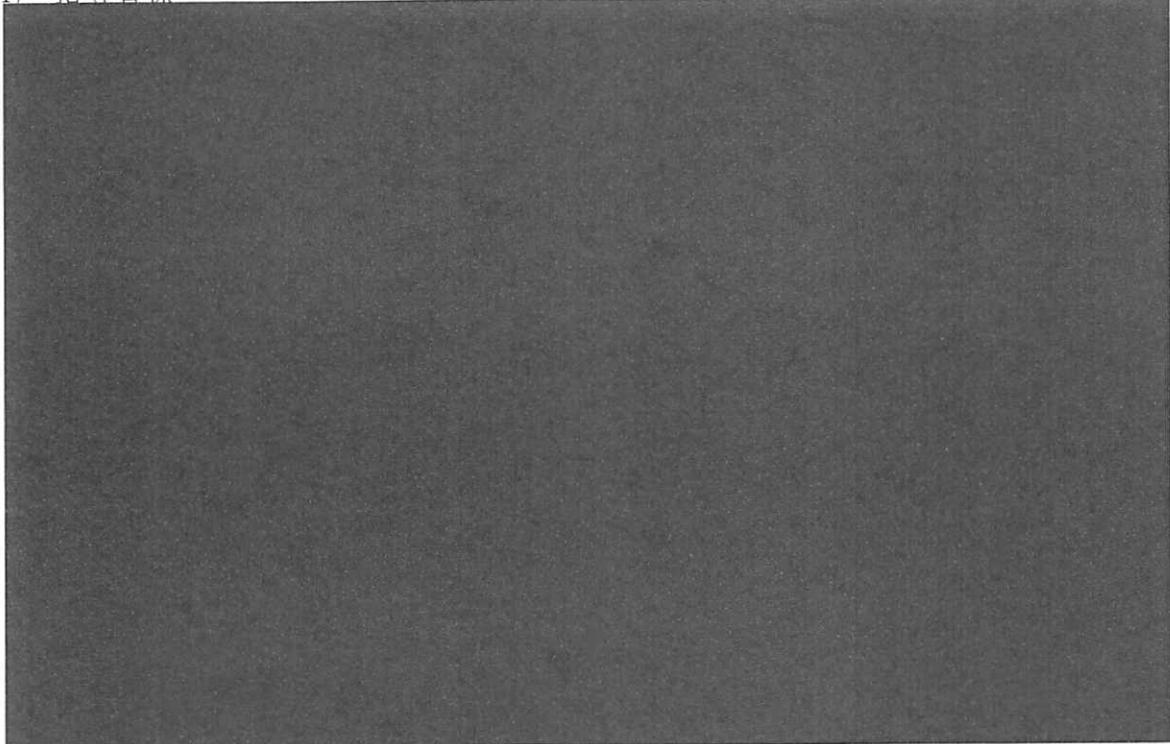
(2) 実施内容



IV 刑事共通

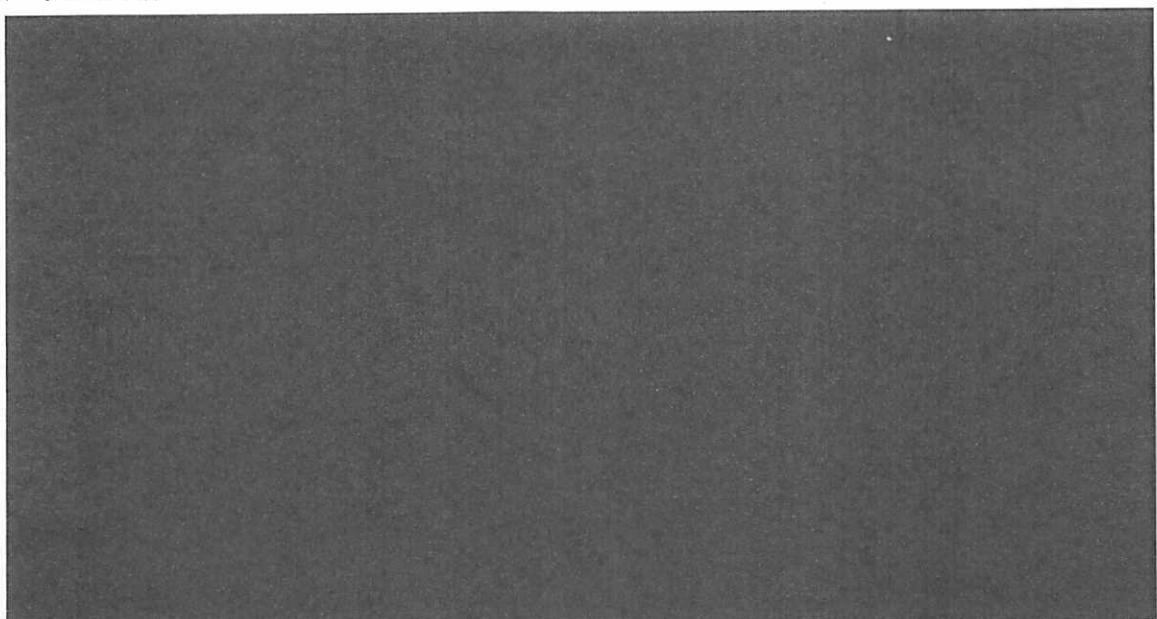
1 刑事共通演習

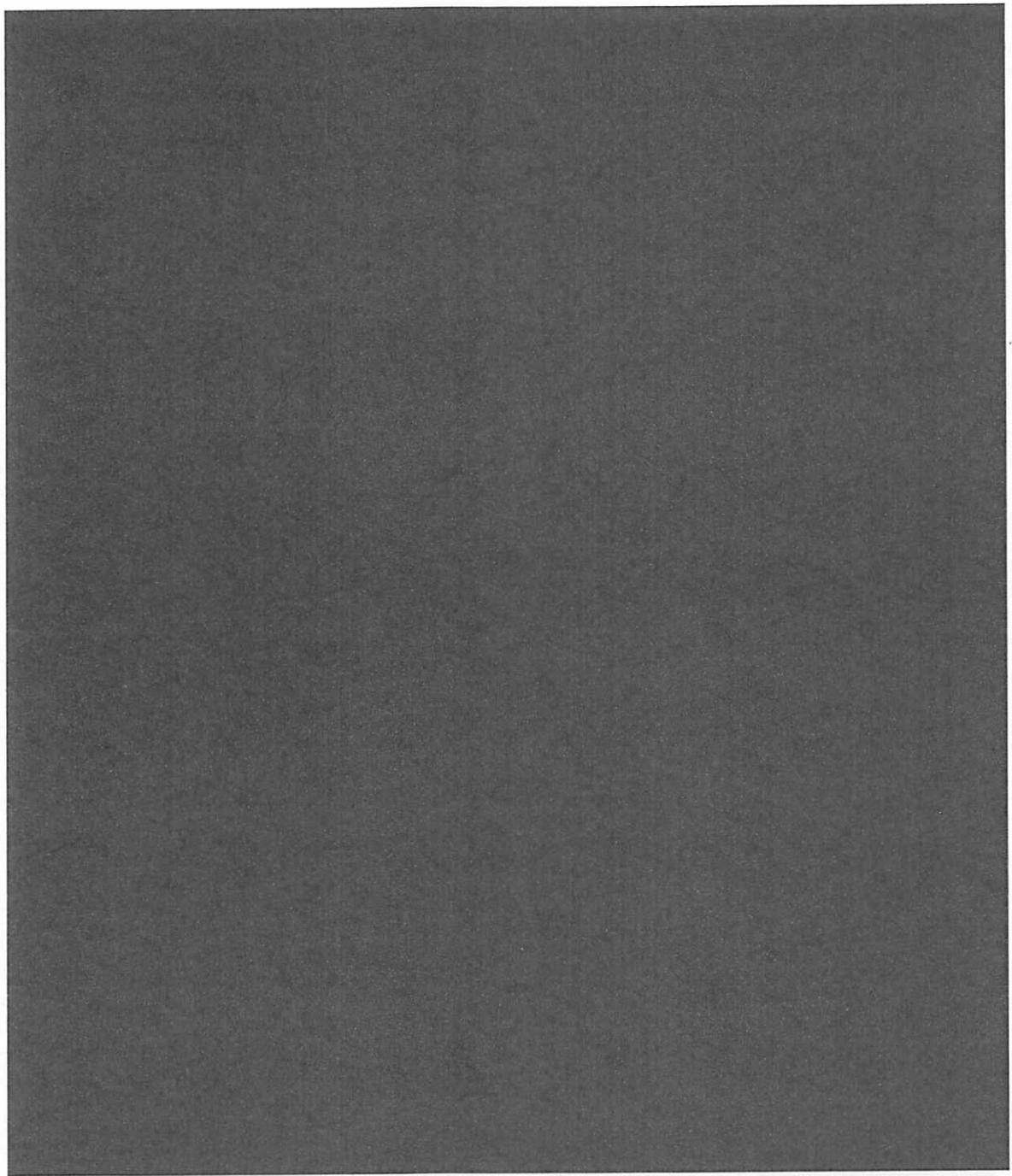
(1) 指導目標



これらの演習を通じ、的確な争点整理を行う上での必要な視点を提供し、これにより、法曹としての活動に共通して必要とされる汎用性のある基礎的な能力を修得させるよう努めた。

(2) 実施内容





2 刑事共通問題研究

(1) 指導目標



(2) 實施內容





第3 その他の共通科目等

I 全科目共通

特別講義「国際人権法の形成と実施」

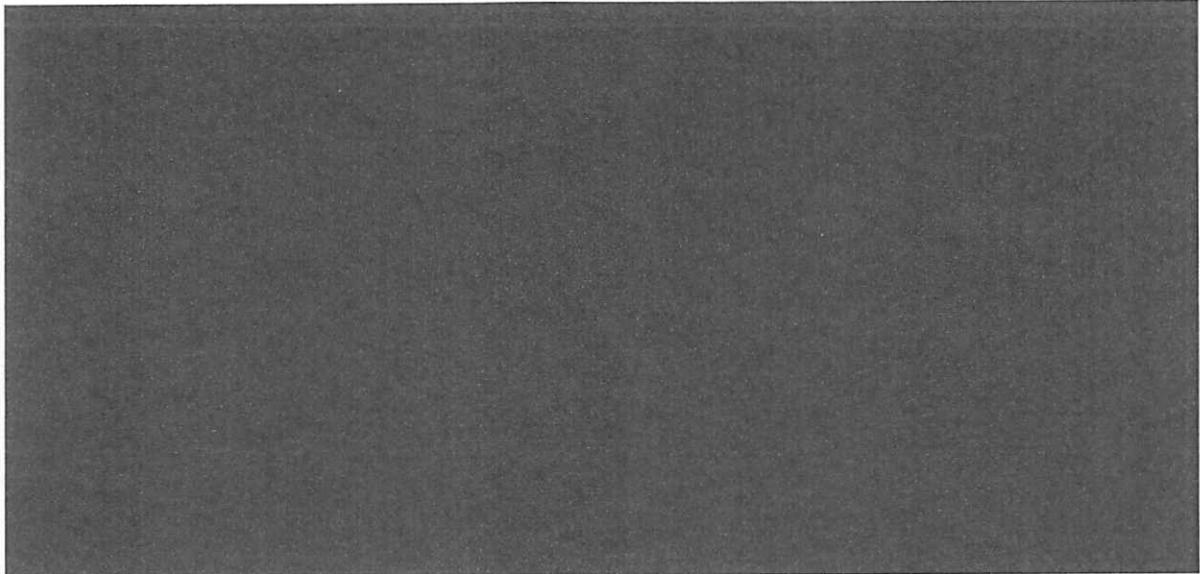
講 師 弁護士（第一東京弁護士会） 上 柳 敏 郎 氏

国際人権については、その重要性に鑑み、各期において全科目共通特別講義という形式で国際人権全般にわたって講演を行ってきた。

第70期においても、同様の趣旨に基づき、講師が、国際人権の重要性や、国際人権法の国内的・国際的実施、国際N G Oの活動等について、ロールプレイ及び講演を行った。

II 弁護共通

演習「弁護士倫理」



平成28年度（第70期）司法修習生

B班 集合修習日程予定表

(注) 本表は予定であって、確定日程ではない。
確定日程は、毎週最終登庁日に配布する。

月 ／ 日	曜	1限目 (9:50～11:40)	2限目 (12:40～14:30)	3限目 (14:45～16:35)	月 ／ 日	曜	1限目 (9:50～11:40)	2限目 (12:40～14:30)	3限目 (14:45～16:35)
16	月	民弁講義(和解条項)	民弁演習(法律相談)		13	月	刑弁起案2講評	刑弁起案2講評	
17	火		民裁起案1講評		14	火	刑裁起案2講評	検察起案2講評	
18	水	刑裁問題研究	刑弁起案1講評		15	水	民共演習4 (判決・講評)	民弁起案2講評	
19	木	民共演習1(口頭弁論期日)	刑共演習(証拠開示等)		16	木		自由研究日	
20	金		刑共演習(争点整理等)		17	金		考試	
23	月		刑共演習(尋問)		20	月		考試	
24	火		民裁起案2(即日)		21	火		考試	
25	水		刑弁起案2(即日)		22	水		考試	
26	木	刑裁起案1講評	検察起案1講評		23	木		勤労感謝の日	
27	金	検察起案1講評	民共演習2(弁論準備手続期日)		24	金		考試	

月 ／ 日	曜	1限目 (9:50～11:40)	2限目 (12:40～14:30)	3限目 (14:45～16:35)
10 ／ 3	火	民裁講義	検察問題研究 (被害者保護)	
4	水	民裁起案1(即日)		
5	木	民弁問題研究1		
6	金	刑弁起案1(即日)		
9	月	体育の日		
10	火	刑裁起案1(即日)		
11	水	検察起案1(即日)		
12	木	民共演習1準備	民弁問題研究2	
13	金	民弁起案1(即日)		

凡例	
民裁	民事裁判
刑裁	刑事裁判
民弁	民事弁護
刑弁	刑事弁護
民共	民事共通
刑共	刑事共通
全共	全科共通
弁共	弁護共通
(即日)	即日起案

(29. 3. 13 司研企二印)